

科目ナンバリング		G-LAS10 80026 LE95 G-LAS10 80026 LE44 G-LAS10 80026 LE42 G-LAS10 80026 LE43							
授業科目名 <英訳>	持続可能な発展とエネルギー転換 Sustainable Development and the Energy Transition			担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 教授 IALNAZOV, Dimitar Savov				
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	人文社会科学系		使用言語	英語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	水3		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
(総合生存学館の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
<p>エネルギー転換とは、現在の化石燃料(石炭、石油、天然ガス)を中心としたエネルギーシステムから再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマス、地熱、小水力)を中心としたエネルギーシステムへの転換を指す。</p> <p>この授業は、対話形式を取り入れながら、次の2つの課題について学生と一緒に考えていく。(1) 持続可能な開発を実現する上で解決しなければならない問題は何か、またこういった問題の可能な解決策は何か、(2) 持続可能な開発を実現するために、再生可能エネルギーへの転換は必要であるが、こういったエネルギー転換を実現するために解決しなければならない問題は何か、またその問題の解決策は何か。具体的に、アメリカ、ドイツ、フランス、日本などに事例を使用して再生可能エネルギー普及の課題を洗い出し、解決策について議論する。さらに、新興国および途上国における再生可能エネルギーへの転換の事例も取り上げる。</p> <p>人類がどのように再生可能エネルギーを活用して気候変動、資源枯渇、貧困と格差といった地球規模課題に対処できるかについての学生に深く考えてもらうことを目的としている。エネルギーの話にかなりの時間を費やすにもかかわらず、結局この授業は、エネルギー自体について学習するものではない。様々な障壁が存在している中、エネルギー転換を実際どう実現できるのか、また、エネルギー転換はどのように実施すれば、環境、現世代や未来世代にとって有益となるかについて考察することはもう一つの目的である。</p> <p>この授業では、従来の学術分野の壁を超えて、工学、経済学、法学、政治学、及び公共政策といったディシプリンの知識や手法を融合することによってエネルギー転換に関する分野横断的な視点を提示したいと考えている。また、理論の学習だけでなく、現実世界で起きている事象分析や実践的な解決策も取り上げる。</p>									
【到達目標】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国レベル、地域レベル、及び企業レベルで起こっているエネルギー転換のケースを批判的に評価する能力を習得できる。 2. エネルギー転換を妨げる様々な障壁に関する革新的なアイデア(解決策)について考える能力も習得できる。 3. 英語のコミュニケーション能力、およびディスカッション能力を向上させる。 									
【授業計画と内容】									
1. イントロダクション									
各学生自身の研究プロジェクトとしてエネルギー転換のケース・スタディーが予定されているため、 <u>研究対象国等を選択してもらう。</u>									
持続可能な発展とエネルギー転換(2)へ続く									

持続可能な発展とエネルギー転換(2)

2. 持続可能な発展と持続可能開発目標 (SDGs)。SDGs、及び気候変動に関するパリ協定の目標を達成するために、再生可能エネルギーはどのような役割を果たせるのか。
3. エネルギー転換に関わる主な概念とアプローチ
4. 技術革新という視点から見たエネルギー転換
5. 経済学の視点から見たエネルギー転換
6. 再生可能エネルギーの導入普及を促進する政策
7. エネルギー転換の政治経済学 (主なアクター、各アクターのインセンティブ、権力構造、同盟など)
8. 学生による中間報告
9. 先進国におけるエネルギー転換 (ケース・スタディー I)
10. 先進国におけるエネルギー転換 (ケース・スタディー II)
11. 新興国及び発展途上国におけるエネルギー転換 -- 新たなグリーン開発モデルは登場するのか?
12. 新興国及び発展途上国におけるエネルギー転換 (ケース・スタディー III)
13. 新興国及び発展途上国におけるエネルギー転換 (ケース・スタディー IV)
14. - 15. 学生による期末報告

【履修要件】

英語でコミュニケーションできる能力、及び英語で書かれた学術的な文書を読解する能力が必要である。

【成績評価の方法・観点】

以下の基準により成績評価を行う。

1. 授業参加*: 50%

* 出席、討論への参加、与えられた課題について授業中に報告することを含む。

2. 各学生自身の研究プロジェクト**: 50%

** 中間報告、期末報告、及び期末レポートの質を含む。

(期末報告は、期末レポートのテーマについて学生が学期の最後の授業で口頭でプレゼンテーションを行うもの。その後、試験期間中に執筆した期末レポートを提出すること。)

詳細は初回授業で説明する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

(関連 URL)

<https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/inalnazof/>

【授業外学修 (予習・復習) 等】

授業前に予習すべきこと、および復習すべきことを説明する。

持続可能な発展とエネルギー転換(3)へ続く

持続可能な発展とエネルギー転換(3)

[その他（オフィスアワー等）]

面談を希望している学生は、（１）名前、学籍番号、所属；（２）可能な面談日時（第３希望まで）を書いてメールをください。メールアドレスは以下の通りである。

<ialnazov.dimitersavov.8w@kyoto-u.ac.jp>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。